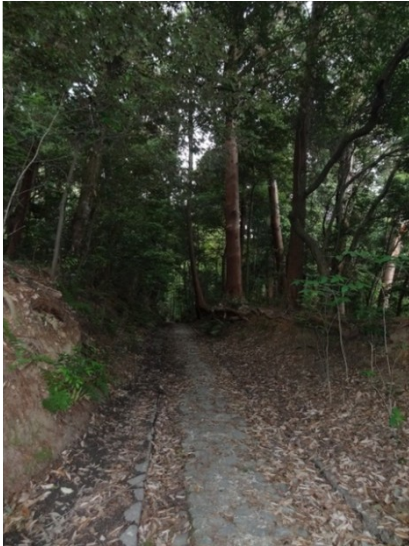


## 日本あちこち河川遡行記（第269回）

奈良1-4. 布留川 後半 令和1年5月31日（金）曇り一時雨

〔続き〕

山の辺の道に入り谷間に架かる橋を渡り鬱蒼と茂った森の中に入る。曇り空が雨模様となり道は夜のように暗くなる。物の怪が出てきそうな雰囲気である。



17.山の辺の道に入ると暗いなー

やがて雨が降り出し用意しておいた傘を取り出し開く。久しぶりの雨中行進だ。神宮の裏側から神域に入る。石上は「いそのかみ」と読む神宮で、日本書紀にも出てくる日本最古の神社であるらしい。数少ない神宮の名が付いている春日大社よりも社格は上だ。薄暗く雨が木々からこぼれて来る道を進み楼門の前に着く。門の反対側に有る石段を登り振り返って提灯に灯明が付いた門をカシャ。横には末社が並び、その内の一つの拝殿は国宝である。



18.暗くなったので提灯に明かりが  
石段を下り楼門を潜り国宝の拝殿に向かう。回廊で雨が止むのを待ち、おみ



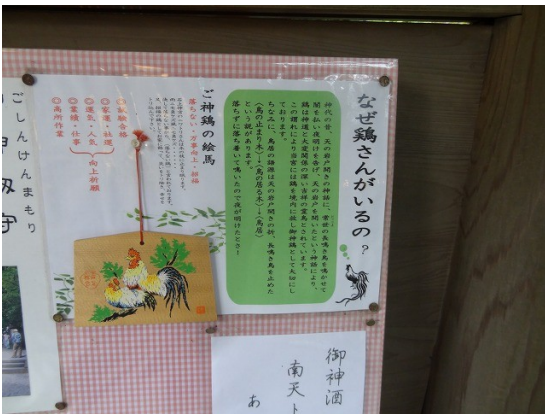
19.この末社の拝殿も国宝だ

くじが鶏のミニ張りぼてなの面白くお土産に買っておく。



20.国宝の「石上神宮」拝殿

順路と逆に進むと池の横に休憩所があるので昼を摂る。神の使いとして飼われている大勢の鶏が休憩所で右往左往してくれる。時々それぞれの鶏が鳴いてくれるが鳴き声が微妙に違う。柿の葉寿司に興味は無さそうで安心して食べられる。



21.神宮では鶏を神の使いとしている



22.鶏が大手を振っているぞ



23.鶏小屋にも神の使いが

雨が止み傘を折りたたんで腰を上げる。玉砂利の参道を西に進むと本来の入

り口の鳥居と石柱が立っている。逆遡行を再開するため北側の川に向かい、見残した橋を診て行く。



24.本来はこちらから参道を進むのだが

細い川沿いの道を西に進むと何と大きな天理風の破風を持った屋根が際立つ建物が川を跨いで建っているじゃないか！伊のアルノ橋やポンテヴェッキオもびっくりの橋？である。この形式の建物が天理市内の随所に建っている。

道を進むとその名も「山の辺交番」と書かれた交番が道に面している。全国区の名前の交番だ。



25.川の上に天理教の建物が建つ



26.交番の名前は「山の辺交番」

幅が広い「和楽橋」に来ると橋の向こうに天理風の建物が延々と連なり、そこから幾筋もの支脈の様な建物が突き出ている。「天理大学」もこの建物に有るようだ。



27.橋の向こうには天理大学が

続いてこれまた桁違いの幅広の橋と市道と立体交差した歩道が2本川を越えている。南には先ほどから連なる建物が、北側には大屋根の純和風の神殿とその奥に天理教本部が有る。これらの橋は教団を繋ぐために有るので市道橋では無く天理教の私道橋かもしれない。その規模の大きさに圧倒される。



28.川を跨ぐ広一い道の南には天理教の建物群が



29.北側には神殿が純和風で

圧倒されながら歩いていると14時に大きな音の聞きなれない音楽が響き渡る。市役所のスピーカーからと思ったが方向が違う、帰宅して調べると天理教が毎日14時に流しているもので、14時は教祖の「中山みき」が亡くなられた時刻で、このサイレンが鳴ると市内の信者は黙祷する習わしがあることを知る。

川幅は極端に狭くなり古い石橋風の橋が残されている。



30.市内に数多く有る詰所も同じ様式で  
建つ



31.古い橋が残されている

やがて国道 25 号が川を越える小さな橋に着く。その名は「親里橋」、天理らしい名前である。上流部よりもはるかに狭い川が橋のすぐ下流側で二手に分かれている。地形図では左側の川筋を「布留川」と表記している。右側は調べた結果「布留川北流」となっている。

南側の細い小川を目指して南西に向かう。上流側を見ると市役所の屋根が京の薙刀鉾のように見える。天理は個性的な建物が多いなー。



32.国道橋を潜ると川は二手に分かれて



33.京の薙刀鉾の様な市役所の屋根

幾つかの小さな橋を診てやって来ると JR 桜井線の PC 桁に到着。今日はここまでとして調べると、コンクリートの隙間から鉄筋の錆汁が出ている。被りが薄くて鉄筋が露出したようにも見えず、桁内部に水が浸入しているようで要検査であるよ JR 西さん。



34.桜井線の2両編成が通過



35.PC桁の鉄筋が腐食しだしているぞ

線路沿いの道を駅に向かい駅前の飲食店で珈琲で一休みする。最近テレビのバラエティによく出ている天理大学出身の柔道の巨漢をこの商店街でよく見かけるようでパチンコ好きと女性の店員さんが教えてくれる。地方都市にしては商店街の人通りは多く、シャッター通りにはなっていない。帰りのこだままで時間に余裕があるので商店街を散策する。時々揃いの黒の法被をハショッタ人とすれ違う。教団関係者は全員この法被を着る習わしのように、同志が直ぐ分かるのだ。法具を売る店のショウウインドウの中には130万円の琵琶が置いてある。今どき珍しい商店街だ。



36.商店街を歩く天理教関係者はみんな揃いの法被を着て



37.この琵琶は130万円也！ベンベン！

駅に向かうと駅の反対側にはレンタサイクルの店があるじゃないか。次回はこれを借りて南北両方の残った橋を診ることにしよう。京都行き急行に乗り帰

路につく。

本日の歩行距離：8.3km。調査した橋の数：31。

総歩行距離：10,442.4km。総調査橋数：13,271。

使用した 1/25,000 地形図：「大和郡山」（和歌山 1 号-3）